

令和7年度

高田高等学校 入学試験問題

国語

《注意事項》

- 1 問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題冊子および解答カードの不備に気付いた場合は、手を挙げて知らせてください。
- 3 解答カードには、受験番号と名前を記入し、受験番号を必ずマークしてください。
- 4 解答欄は

| |
|---|
| 1 |
| 2 |
| 3 |
| 4 |
| 5 |
| 6 |
| 7 |
| 8 |
| 9 |

 です。
- 5 解答はすべて解答カードにマークしてください。
- 6 解答は【解答カードのマークのしかた】に従って、間違いないようにマークしてください。
- 7 問題冊子の余白はメモ等に利用してかまいません。
- 8 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

【解答カードのマークのしかた】

(例)

1
2
の答えがエの場合、1の欄のエをマークします。
の答えが二つあってウとオの場合、2の欄のウとオをマークします。

| 受験番号 | 氏名 | | | | | | | | |
|------|-------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 0123 | 高田 太郎 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

高田高等学校

【一】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

日本語の敬語研究では、尊敬語、謙譲語、*丁重語、丁寧語、*美化語といった、いわゆる正統的な敬語の歴史的研究が長年なされてきました。そうした①従来の敬語があり、もう一方に「授受動詞」と呼ばれる「やりもらいの動詞」があります。「やる・あげる・さしあげる／くれる・くださる／もらう・いただく」という三系列七語で一つの体系を成しています。他の動詞の後ろにつけて、恩恵や丁寧などを示すこともできます。相手への配慮を示すという意味で、これらの補助動詞は敬語と同じような働きをしていますが、同時にちょっと異なる機能も持っています。

敬語は上下の身分関係やウチソト関係を表すときに使われ、授受動詞の補助動詞用法は恩恵関係を表す時に使われています。敬語の方はどうちらかというと固定的な関係を示しますが、授受動詞の方はそのつど臨時的に取り結ばれる（商売などの）関係における遠近の距離感を調整しているので流動的です。当然のことながら、補助動詞は、前近代から近代へ、近代から現代へという大きな時代の流れの中で、人々の匿名的・臨時の関係性におけるポライティクス（言語的配慮）を担当するのに適していたのです。こうした敬語と授受動詞の補助動詞用法の特徴を図に整理したのが図2—2です。

「くださる」「いただぐ」は敬語形なので、「敬語」と呼べるのですが、「くれる」「もらう」といった非敬語形でも、じつは同様の丁寧さを伝える役割を果たしているので、単に敬語形か否かといった形式だけの問題ではなく、授受動詞の補助動詞用法かどうかが重要です。細かく見ると違いはあるのですが、ここでは②授受動詞の補助動詞用法を、敬語に準ずる機能を持つているものとして扱っていきます。

他の動詞の後ろにつけて使われる用法は補助動詞と呼ばれています。この本では授受動詞について、しかも、③もつぱら「させていただぐ」を扱っているので、「授受動詞の補助動詞用法」のことを、略して「補助動詞」と呼ぶことにします。

例として授受動詞の「もらう」を取り上げます。「誕生日にプレゼントをもらつた」の場合は授かるという意味の「もらう」が本動詞として使われています。しかし、もらうのはモノだけではありません。「休暇をもらう」「元気をもらう」「お休みさせてもらう」などのように、Xな事柄や気持ち、行為への許可も「もらう」ことができます。

図2—2 敬語と授受動詞の補助動詞用法の機能の違い

| | 敬語 | 授受動詞の補助動詞用法 |
|-----------|------|-------------|
| 使用場面 | 身分関係 | 恩恵関係 |
| | 固定的 | 《 A 》 |
| 匿名的・臨時の関係 | 不適切 | 《 B 》 |
| 時代性 | ～近代 | 《 C 》 |

例えば「書く」という動詞に「もらう」を付けると、「書いてもらう」となります。ここでもらうのは、「あなた」の「書く」という行為です。単に「あなたが書く」というと、「私」とは関係のない事柄ですが、「書いてもらう」というと、言語的に「あなた」と「私」の関係が生まれます。詳しくは*第三章で論じますが、この言語的な「あなた」との関係性を④「あなた認知」と呼びたいと思います。そのことが付け加わることで、聞き手はそれを自分への配慮と感じるわけです。「書いてもらう」と言うことによって、書いている「あなた」と「私」がやりもらい関係で繋がります。「もらう」を敬語形にして「書いていただく」になると、さらに丁寧さが増します。この「丁寧さ」の正体は何かというと、じつは距離感です。

敬語には敬意が込められているのですが、言語的には距離感として表現されています。これは一種の^{いんゆ}（メタファー）です。相手の行動を「書く」と直接的に表現せずに、そこに補助動詞を加えて「書いてもらう」とすると、自分がもらう側になり下位に位置づけられ、へりくだることになります。「もらう」によって自分と相手との間に一時的に^⑤キヨギの上下関係ができると、距離感が生まれ、Yが薄まって丁寧さが醸し出されるわけです。

授受動詞について押えておくべき重要なポイントは、やりとりされるものが何であれ、やる側が上位に、もらう側が下位に位置づけられることです。上司が部下に対して仕事を依頼する場合に「この書類、明日までに作つておいてもらえますか?」と「もらう」を使つたりするのは、会社での職階による元々の上下関係を「もらう」で（自分をもらう側へと低めて）中和することによって、相手への配慮を示しているのではないかと思います。

モノやお金など、価値のあるものは、上位者から下位者へと与えられるのが普通なので、「先輩に美味しいお店を紹介してもらつた」は普通に言えますが、逆の場合、「先輩に美味しいお店を紹介ⁱ」は粗野な感じがするし、「ⁱⁱ」も恩着せがましく聞こえます。さらに敬語のレベルを上げて「紹介ⁱⁱⁱ」に変えてみても、話し手が気取っているとしか解釈できず、今はちょっと使えない感じがします。自慢話や*マウンティングをするのでないかぎり、自分が目上の人よりも上位に立つような表現は、はばかられるからです。

では、そういう場合、どのように言えばよいのでしょうか?「させていただく」の出番です。^⑥「させてもらう・いただく」を使つて、「紹介させてもらう・いただく」にすると、不遜な感じが薄れます。行動の許可をありがたく受け取つてることになるからです。

上下関係が明確な身分社会では、尊敬語、謙譲語、丁寧語といった伝統的な敬語が有効に機能していました。しかし、現代の民主的な社会では、人々の間に固定的な身分や階級のような上下関係ではなく、人間関係は基本的に平等だとされています。そこにあるのは、

基本的にはフラットな横の関係です。^⑦そういう平等な社会では、上下関係で使われていたものとは異なるタイプの敬語が必要となります。そういう時に丁重語や美化語が役に立つわけです。相手が誰であれ、自分の丁寧さが示せるからです。それに加えて、その場の関係性の中で丁寧さを示すことができるのが、「させていただく」のような補助動詞として使われた授受動詞です。

(注)（椎名美智『「させていただく」の使い方 日本語と敬語のゆくえ』より）

- * 丁重語：自分の行為を丁寧に述べることによって自分の丁寧さを示し、結果として間接的に敬意が相手に向いていく敬語。謙譲語から分かれた敬語で、「申す」「参る」「愚息」「弊社」などが挙げられる。
- * 美化語：特定の人に敬意を向けるものではなく、述べる事柄を丁寧に言う敬語。丁寧語から分かれた敬語で、「お水」「お米」「お肌」「お勉強する」などが挙げられる。
- * 第三章：第三章において筆者は、七〇〇人の意識調査を行い、「あなた」の存在や関与が必須の動詞と一緒に使われると、「させていただく」という表現への違和感は小さいという結果を導き出している。
- * マウンティング：自分が相手よりも優位な立場に立とうとすること。
- * 不遜な：思い上がったさま。

問 傍線部①「従来の敬語」とありますが、「従来の敬語」のうち尊敬語を含む文として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア. 高校の同窓会で、久しぶりに担任の先生とお会いする。
ウ. チームを優勝に導いた監督に、賞賛の声が寄せられた。
オ. 私のあこがれの作家が、ついに新作をお書きになつた。
- イ. 高校へ進学したら、電車で通学することになります。
エ. 有名な水彩画の先生から、上手だと褒めていただいた。

問 図2-2中の空欄A・B・Cに入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のア～カから選びなさい。

- ア. A—流動的 B—最適 C—現代
ウ. A—流動的 B—最適 C—前近代
オ. A—流動的 B—不適切 C—現代
カ. A—言語的 B—最適 C—前近代

2

問 傍線部②「授受動詞の補助動詞用法」とあります、その「用法」を含む文として適当でないものを、次のア～オから一つ選びなさい。

3

- ア・契約書を確認していただき必要がある。イ・この注意事項に目を通してもらえますか。
ウ・大事なことを話してくれてありがとう。エ・たくさんのお札をいただいてしまつた。
オ・君にはここで意欲的に学んでもらいたい。

問 傍線部③「もっぱら」の意味として最も適當なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア・さしあたりイ・たくさん
ウ・時にはエ・主に
オ・大まかにオ・総合的

4

問 空欄Xに入ることばとして最も適當なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア・能動的イ・抽象的
ウ・現実的エ・意図的
オ・総合的オ・大まかに

5

問 傍線部④「『あなた認知』」とあります、どういうことですか。その説明として最も適當なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア・授受動詞を用いることによって、「あなた」と「私」に言語的な関係が結ばれ、距離感にもとづく丁寧さが生まれること。
イ・授受動詞を用いることによって、言語的な関係がなかつた「あなた」と「私」の間に共通の言語が新たに生み出されること。
ウ・授受動詞を用いることによって、「あなた」という概念が登場し、それによりおぼろげな「私」の存在も規定されること。
エ・授受動詞を用いることによって、「私」が言語的配慮を行い、はじめて「あなた」の存在を認識することが可能になること。
オ・授受動詞を用いることによって、無関係な「あなた」と「私」がやりもらい関係で繋がり、両者の利害が明確になること。

6

問 傍線部⑤「キヨギ」の「ギ」と同じ漢字を含むものを、次のア～オから一つ選びなさい。

- ア・オングを感じる。イ・ギコウをこらす。
ウ・ギネンを抱く。オ・予算案をシングする。

7

問 空欄Yに入ることばとして最も適當なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア・主体性イ・互換性
ウ・合理性エ・普遍性
オ・直接性オ・間接性

8

問 空欄 i・ii・iiiに入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のア～カから選びなさい。

- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| ア . i ーしてあげた | ii ーしてやつた | iii ーしてさしあげた |
| イ . i ーしてあげた | ii ーしてさしあげた | iii ーしてやつた |
| ウ . i ーしてやつた | ii ーしてあげた | iii ーしてさしあげた |
| エ . i ーしてやつた | ii ーしてさしあげた | iii ーしてあげた |
| オ . i ーしてさしあげた | ii ーしてあげた | iii ーしてやつた |
| カ . i ーしてさしあげた | ii ーしてやつた | iii ーしてあげた |

9

問

傍線部⑥「『させてもらう・いただく』を使って、『紹介させてもらう・いただく』にすると、不遜な感じが薄れます」とあります、なぜそのように言えるのですか。理由として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア . 上下関係が明確な社会において、目上の人に対する行動の許可をいただくことが一般的に高く評価されるから。

- イ . 古い身分制度にとらわれないためには、伝統的な敬語ではなく、授受動詞を使用することが必要になるから。

- ウ . 目上の者が相手への配慮を表すことによって、人々の上下関係を中和し、物事の円滑な進行が可能になるから。

- エ . 仕事や年齢といった上下関係に十分に配慮することによって、相手に行動の許可を与えることができるから。

- オ . 場における関係性の中で丁寧さを示すことができ、自分が目上の人より上の立場に立つことを避けられるから。

問

傍線部⑦「そういう平等な社会」とありますが、そのような社会において必要とされる敬語に関する説明として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

11

10

- ア . 相手が目上であれば尊敬語、目上でなければ謙譲語を使い、自分と相手との上下関係をきちんと言い表す。
- イ . 相手が自分より目上であるかどうかにかかわらず、互いの関係性の中で適切な丁寧さを示すことができる。
- ウ . 丁重語や美化語を使い、聞き手や読み手などあらゆる相手に配慮することが当然のこととして求められる。
- エ . 相手が誰であっても丁寧さを示す必要があるため、授受動詞はもちろん、丁寧語も重要性が高まっている。
- オ . できるだけ授受動詞を用いることで、自分と相手の関係性をあいまいにし、互いに対等であることを示す。

【二】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

高校一年生の坂東（サカトウ）は、京都で開かれる女子全国高校駅伝（都大路）の補欠メンバードたが、本番前夜に急きよアンカーを任せられた。彼女は極度の方向音痴という不安を抱えながら、タスキを受け取る中継所の近くで待機している。

A 本当に私、走るんだ――。

スタジアムからこの中継所までの連絡バスに乗っている間も、雪とともに流れしていく京都の街並みを眺めながら、いつそこのまま家の前まで走つて帰つてくれないかな、と内心、眞面目に願つていた私である。

バスから下りたのち、待機所になつていてる病院のロビーでは、はじめて留学生のランナーを見た。彼女のことは陸上競技雑誌で見かけたことがあった。私や^{*}咲桜莉が得意とする中距離走の高校記録を持つ超有名選手だった。驚いたのは、彼女が自分よりもずっと身長が低かったことだ。

緊張のしすぎで、□ X □ 私に対し、留学生の彼女は同じデザインのベンチコートを着た女の子二人と談笑していた。サ

ポート要員として、中継所まで部員が駆けつけているのだ。呼び出しの寸前まで、留学生は足のマッサージを受けていた。ひとりでやることもなく、キヤラメルを舐めていた私とはエラい違いだつた。

第二集団のトップを切つて、その留学生選手がタスキを受けて出発する。
「すごい」

思わず声が漏れてしまふほど、今まで見たことがない走りのフォームだった。

まわりの選手たちもハツとした表情で彼女の後ろ姿を目で追つていた。走る際の、足のモーションがまるで違つた。走るためのマシーンと①力した下半身に、まったくぶれない上半身がくつついているようだ。跳ねるように地面を蹴る、その歩幅の広さといい、それを支える筋肉のしなやかさといい、何て楽しそうに走るんだろう、とほれぼれしてしまふフォームで、彼女はあつという間に走り去つていった。

彼女の残像を思い浮かべながら、視線を中継所に戻したとき、
「私は好きだよ、サカトウの走り方。大きくて、楽しそうな感じがして」

緊張のしすぎで、まったくごはんを食べる気が起きない朝食会場で、正面に座る咲桜莉に突然告げられた言葉が耳の奥で蘇^{よみがえ}つた。そんなことを彼女から言われたのははじめてだった。私は咲桜莉の機敏で跳ねるような足の運び方や、テンポのよい腕の振り方が、自分にはできない動きでうらやましく、自分の走り方は大難把^{おおさづぱ}で無駄が多いと思つていたから、驚くとともに純粋にうれしかつた。おかげで用意された朝食を全部平らげることができた。

私が留学生の彼女を見て楽しそうと感じたように、咲桜莉が私の走りを見て楽しそうと感じてくれている――。

留学生の彼女と私じゃレベルがまったく違うけれど、^②不思議なくらい勇気が太ももに、ふくらはぎに、足裏に宿つたように感じた。気づくと、あれほど我が物顔でのさばつていた緊張の気配が身体から消え去っている。

そうだ、私も楽しまないと――。

こんな大舞台、二度と経験できないかもしれない。もちろん、来年だってここに戻つてきたいけれど、私が走れる保証はどこにもないのだ。

ならば、この瞬間をじっくりと楽しまないと。最初で最後のつもりで、都大路を味わわないともつたいないぞ、サカトウ。

③ 図々しい気持ちがじわりじわりと盛り上^{あが}つてくると同時に、走る前の心構えが整ってきた。さらには、周囲の様子もよく見えてきた。もつともそれは、半分の選手がすでにゼッケン番号を呼ばれ、待機組の人数が減つたせいかもしれないけれど。

B 早く、走りたい――。

身体がうずいて、その場で二度、三度とジャンプして、ステップを踏んだ。

すでに先頭が通過してから、五分以上が経過しただろう。

ついに、私の番号が呼ばれた。

順位に関しては、良いとは言えない。

でも、それは菱先生も事前に予想済みのことだった。というのも、各都道府県で行われた予選大会にて、五人のランナーは本番と同じ距離を走る。コースのつくりや、当日の天候の違いによる影響は多少あるだろうが、都大路に □ Y を進めた各校のタイムはすべて公開されるので、その記録をチェックしたら、おのずと全体における自校のだいたいの位置がわかる。私たちの学校の記録は四十七校中三十六位だった。

「全員がはじめての都大路で、いきなりいい成績なんて出ないから。今回はまずは二十位台を目指そう」

と菱先生はハツパをかけたが、この場に残っているのは十五人くらい。すでに三十位台にいることは間違いなさそうだ。

中継線に並んでいた選手が四人、目の前で次々とタスキを受け取り、④一目散に駆け出していく。

ベンチコートを脱ぎ、青いキヤップをかぶつた係員に手渡し、中継線まで進んだ。

私とほぼ同じタイミングで、すぐ隣に赤いユニフォームの選手が立つ。

私よりも五センチくらい背が高い。寒さのせいか、緊張のせいか、血の氣のない真っ白な肌に、唇だけが鮮やかな赤色を残していた。ぱつつんと一直線に揃えられた前髪と重なるように、きりりと引かれた眉の下から、切れ長な目が私を見下ろしている。

互いの口から吐き出される白い息を貫き、視線が交わった瞬間——、^⑤彼女の目Aと、私の目Bを結ぶ、直線ABの中間点Cにて、何かが「バチンッ」と音を立てて弾けるのを聞いた気がした。

相手は目をそらさなかつた。

私も目をそらさなかつた。

拡声器を手に係員のおじさんが隣を通つたのを合図にしたように、二人して同じタイミングでコースに向き直つた。

体格を見ても、面構え見ても、相手は一年生ではなさそうだつた。

でも、何年生であつても、この人には負けたくない——。

むらむらと闘争心が湧き上がつてくるのを感じた。

そう言えば、「どうして、私なんですか?」と昨夜、菱先生の部屋で泣きべそをかく寸前の態で選考の理由を訊ねたとき、「駅伝はみんなで戦うもの。でも、いちばんしんどいときは、誰だつてひとりで戦わなくちやいけない。そこでどれだけ戦えるかは、持ちタイムでは測れない。じやあ、ひとりで粘り強く戦えるのは一年生で誰かつてなつたとき、キヤブテンも*ココミも真っ先に挙げたのが、坂東——、アンタの名前だつた」

と告げてから、「鉄のヒシコ」は「私もそう思つた。だから、死ぬ気で走つてきな」と完全に目が据わつた表情でニヤリと笑つた。

菱先生は勝負師ゾーンに入つてしまつた感じで怖すぎるし、二人の先輩が推してくれたことも、それつて買いかぶり以外の何物でもない、と今でも思うが、雪が舞う視界の先に^⑥自分と同じ黄緑色のユニフォームが見えた途端、すべてが頭のなかから吹つ飛んだ。

「美莉センパイ、ラスト! ファイトですッ!」

目いっぱいの声とともに、私は両手を大きく頭上で振つた。

雪の勢いが増したぶん、ユニフォームのネオンカラーが映えて見える。美莉センパイは赤ユニフォームの選手と並びながら近づいてくる。どちらが先を走つているのか、よくわからないが、その歪んだ表情からも、センパイが最後の力を振り絞つてラストスパートをかけていることは明らかだつた。

「美莉センパイ! 美莉センパイ!」

と名を連呼する横で、同じく赤ユニフォームの選手が、

「わかば! わかば! 最後の力出せエ!」

と叫んでいた。

美莉センパイお馴染みの、肘^{ひじ}を左右に張つたフォーム、その右手にはすでに肩から外されたピンク色のタスキが握られていた。

自然、身体がスタートの⑦タイセイを取る。

シユーズがアスファルトを蹴る足音が一気に近づいてきて、肌に触れた雪が解けたのか、それとも汗なのか、テカテカに濡れた美莉センパイの顔が迫ってきた。

苦しいだろうに、それでも笑顔を作り、「まっすぐ進んで、一回だけ右！」

と⑧甲高い声とともに美莉センパイはタスキを渡し、私の背中をパンツと叩いた。

(注) *咲桜莉：坂東と同じ一年生で、一年生の補欠メンバーの中では最も良い記録を持っている。
*ココミ：上級生の心弓。代表のレギュラーメンバーだったが、貧血体质のため出場を辞退した。

(万城目学『八月の御所グラウンド』所収「十二月の都大路上下ル」より)

問 二重傍線部A 「本当に私、走るんだ——」から二重傍線部B 「早く、走りたい——」にかけて、「私」の心情はどうのように変わりましたか。その説明として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

12

- ア 最初は雪という悪条件の下で走ることに不安を感じ、このままバスで家に帰つてしまいたいという弱気な気持ちでいたが、自分の走る順番が近づくにつれて、仲間のために走らなければならぬという気持ちになつた。
- イ 最初は補欠メンバーだった自分が大会に出場することが嫌で受け入れられずにいたものの、周囲の選手の様子を見るにつれて闘志に火がつき、早く走り出してすばらしい記録を残したいという意欲的な気持ちになつた。
- ウ 最初は練習通りに走ることができるか心配で仕方がなかつたが、思い思いにリラックスしている他校の選手の様子を見ているうちに、自分の納得のいく走りを他の部員に対して見せたいという積極的な気持ちになつた。
- エ 最初は自分が選手として大会に出場する実感が薄く、緊張のあまり逃げ出したい気持ちでいたが、緊張が薄れ、周囲の選手の様子が目に入るようになってくるにつれて、大会を楽しもうという前向きな気持ちになつた。
- オ 最初は意識するほどのライバルがおらず、チームのために一生懸命走ることの意味を見いだせずにいたが、明らかに自分より実力が上である留学生の走りを見たことで、絶対に負けたくないと奮い立つ気持ちになつた。

問 空欄Xに入る表現として最も適當なものを、次のア～オから選びなさい。

13

- ア・舌の動きが何者かに支配されてしまったような
ウ・身体をどこかに置き去りにしてしまったような
オ・足下に伸びる影に覆い隠されてしまったような

- イ・肉体と精神が完全に一体となってしまったような
エ・周囲の様子が目に入らなくなってしまったような

問 傍線部①「力した」の「力」と同じ漢字を含むものを、次のア～オから一つ選びなさい。

14

- ア・昨日読んだ小説にカンカされて日記をつけ始めた。
ウ・プロジェクトの成功には周囲の協力がフカケツだ。
オ・スピーチの持ち時間をチヨウカしてはいけない。

- イ・早朝のランニングが彼のニッカだと聞いた。
エ・カモツ列車の長い列が踏切にさしかかった。

問 傍線部②「不思議なくらい勇気が太ももに、ふくらはぎに、足裏に宿つたように感じた」とあります。なぜですか。その理由

として最も適當なものを、次のア～オから選びなさい。

15

- ア・ほれぼれるフォームで走る留学生と私との間には大きな実力差があると自覚しているが、咲桜莉に褒められたことで、その差を乗り越えられるはずだと感じたから。
イ・今まで見たことがないフォームで走る留学生が楽しそうに見えたことで、咲桜莉が私の走りを楽しそうだと感じてくれていてうれしかった記憶が呼び覚ましたから。
ウ・中距離走の高校記録を持つ留学生の走りの速さを私が身をもって感じた後に、突然咲桜莉に心からの励ましを受けたことによつて、驚くと同時に緊張がほぐれたから。
エ・緊張している私に対して、有名選手である留学生の走りを見て感じた楽しさを、嫌味なく伝えてくれる咲桜莉の素直な性格がうらやましかったことを思い出したから。
オ・思わず声が漏れてしまうほど楽しそうな留学生の走りを見て、チームのアンカーを任された私が咲桜莉を失望させてはいけない感じ、身体が硬直してしまったから。

問 傍線部③「図々しい気持ち」とありますか。その説明として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

16

- ア. 二度と経験できないかも知れない大舞台なのだから、走る楽しさを来年の後輩にも味わってほしいという欲深い気持ち。
イ. 二度と経験できないかも知れない大舞台なのだけれど、自分たちの実力で来年も出場できるという思い上がるがつた気持ち。
ウ. 二度と経験できないかも知れない大舞台なのだから、走れることに感謝を忘れず最善を尽くしたいという謙虚な気持ち。
エ. 二度と経験できないかも知れない大舞台なのだけれど、結果はどうあれ楽しむことだけが大切だという身勝手な気持ち。
オ. 二度と経験できないかも知れない大舞台なのだから、貴重な機会をしつかり楽しめないといけないという大胆な気持ち。

問 空欄Yに入ることばとして最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア. 足 イ. 駒 ウ. 列 エ. 手 オ. 先

17

問 傍線部④「一目散に」の意味として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア. 同じ方向へ一斉に走るさま。 イ. 一度見てすぐに走るさま。 ウ. 目にもとまらぬ速さで走るさま。

- エ. わき目もふらずに走るさま。 オ. ちりぢりに走り出すさま。

18

問 傍線部⑤「彼女の目Aと、私の目Bを結ぶ、直線ABの中間点Cにて、何かが『バチンッ』と音を立てて弾けるのを聞いた気がした」とありますが、その様子の説明として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

19

- ア. 「彼女」と「私」の視線が激しくぶつかり、年上だと思われる「彼女」から強い威圧感を感じている様子。
イ. 「彼女」と「私」の視線が激しくぶつかり、どちらのタスキが先に渡されるか互いに採り合っている様子。
ウ. 「彼女」と「私」の視線が激しくぶつかり、互いに負けたくないという闘争心をむき出しにしている様子。
エ. 「彼女」と「私」の視線が激しくぶつかり、相手よりもスタートに有利な場所に立とうと争っている様子。
オ. 「彼女」と「私」の視線が激しくぶつかり、これから戦いに臨む同志としての連帯感が芽生えている様子。

問 傍線部⑥「自分と同じ黄緑色のユニフォームが見えた途端、すべてが頭のなかから吹っ飛んだ」とあります、なぜですか。その理由として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

20

- ア 目立つネオンカラーの自校のユニフォームを見て、勝負師ゾーンに入ったときの菱先生の怖さを思い出したから。
イ 自分にタスキをつなごうと遠くから走ってくる先輩の姿を見て、なぜ自分が選手に選ばれたのか納得できたから。
エ 雪が舞う中継所で孤独に待っていたが、チームのユニフォームを見て自分もその一員であることを実感したから。
オ 前の区間を走る先輩の姿を見つけ、ライバル視している選手と勝負しなければならないことに恐怖を感じたから。

問 傍線部⑦「タイセイ」の漢字として正しいものを、次のア～オから一つ選びなさい。

21

- ア 態勢 イ 体制 ウ 大成 エ 体勢 オ 大勢

問 傍線部⑧「甲高い声とともに美莉センパイはタスキを渡し、私の背中をパンツと叩いた」とありますが、このときの「美莉センパイ」はどのような気持ちだと考えられますか。最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

22

- ア 「私」の精一杯の応援はありがたかったが、その応援はまだ足りなかつたと感じ、先輩として手本を見せようとしている。
イ 最後まで必死に走り続けて苦しいが、先輩として、一年生ながらメンバーに選ばれた「私」を励ましたいと思っている。
ウ 自分は無事に走り終えたが、これから走る後輩の「私」はなかなかコースを覚えられないで、とても不安に思っている。
エ 赤ユニフォームの選手を振り切れなかつた怒りを伝えるとともに、「私」に少しでも順位を上げてほしいと思っている。
オ 駅伝は全員で戦うものであります、ひとりで粘り強く戦うものもあるので、孤独な戦いに向かう「私」を慰めている。

【三】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

* 小少将の君の、①文おこせたる返りごと書くに、時雨しぐれのさざとかきくらせば、②使ひもいそぐ。

さつと

「また、空のけしきも、うちさわぎてなむ」 とて、腰折せこれたることや書きませまぜたりけむ。暗うなりにたるに、たち帰かり、③いたうかすめたる*

と書いて、私は不出来な和歌を添えて送つただろうか
返事が来て
折り返し

濃染紙こぜんしに、
さわぎてなむ」 とて、腰折せこれたることや書きませまぜたりけむ。暗うなりにたるに、たち帰かり、③いたうかすめたる*濃染紙こぜんしに、

*雲間なくながむる空もかきくらしいかにしのぶる時雨なるらむ

自分が書いたこと

書きつらむこともおぼえず、

今の季節らしい

ことわりの時雨の空は雲間あれど④ながむる袖そでぞかわくまもなき

(注)

* 小少将の君：作者（紫式部）と特に仲の良かつた女性。ともに宮中で仕えていた。

* 濃染紙：濃い紫色で、雲形にぼかし染めにした紙。

* 雲間なくながむる空もかきくらしいかにしのぶる時雨なるらむ

…絶えず物思いにふけつて眺めている空も、私の心と同様に雲の絶え間もありませんが、いつたい何を思つて降る雨なのでしょうか。

それはあなたを恋しく思う私の涙なのですよ。

(『紫式部日記』より)

問 傍線部①「文おこせたる」の意味として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

23

- ア・和歌を詠んだ イ・書物を著した ウ・文字に起こした エ・贈り物をくれた オ・手紙を送つてきた

問 傍線部②「使ひもいそぐ」とあります、なぜですか。その理由として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

- ア・他の用事があるから。 イ・日が暮れてきたから。 ウ・長居するのは失礼だから。
エ・雨が降り始めたから。 オ・相手の家が遠いから。

問 傍線部③「いたう」に用いられている音便の種類として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

25

- ア・撥音便 イ・イ音便 ウ・ウ音便 エ・促音便

問 傍線部④「ながむる袖ぞかわくまもなき」とありますが、この和歌に詠まれている内容の説明として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。

26

- ア・作者が物思いにふけり、涙を流している。
ウ・小少将の君が物思いにふけり、涙を流している。
エ・小少将の君が作者の歌のすばらしさに感動し、涙を浮かべている。
オ・雨が絶え間なく降り、互いの袖を濡らしている。

問 右の文章は『紫式部日記』の一節ですが、同時に成立した隨筆として正しいものを、次のア～オから一つ選びなさい。

27

- ア・徒然草 イ・伊勢物語 ウ・方丈記 エ・土佐日記 オ・枕草子

(国語の試験問題は以上です。)